

令和5年度学校評価 (1学期・評価)

- 1 学校の教育課題 ○確かな学力の向上 ○豊かな心の育成 ○体力向上と保健・安全意識の向上
 ○特色ある開かれた学校づくりの推進 ○教職員の資質向上

4：よく実践され効果も出ている 3：実践されている 2：実践されているが効果が出ていない 1：実践が十分でない

重点目標	評価項目	評価			成果や課題
		1学期	R3.1学期	差	
確かな学力の向上	1 児童に、各学年の発達段階に応じたガイド学習の進め方が定着している。	2.50	2.00	0.5	1-●2学期以降は、複式学級を見据えたガイドの育成などに取り組みたい。 1・4-●落ち着いて授業をすることがまだ難しいので、いろいろなことを試していきたい。 6-●まだ、授業中にタブレットを生かしていないので、少しずつ取り組めることをふやしていく。 7-○家庭が声掛け・見届けをしてくださるので、習慣化できている。 9-○全校体制で、子供たちを見守ることができていて、担任としてとても安心感を感じている。 13-○うちどくをはじめ、読書活動が充実しており、とてもありがたい。 14-○保健面での取組みがふえて、保健室で様々な面でサポートしていただき、とても助かっている。 16-●むしば保有率は、26%であったが、CO(要観察歯)6名31.6%、歯垢付着4名21.1%、歯肉炎2名10.5%と口腔衛生の状態は良くないです。家庭との連携や給食後の歯みがきチェックを週1回行って、これ以上悪くならないようにしたいです。 21-○運動会をはじめ、地域と活動する機会が増えており、とてもよい。 26・27-○業務改善にも取り組めており、効率よく仕事ができている。
	2 児童は、問題に気付き、見直しをもって課題に取り組んでいる。	3.00	2.00	1.0	
	3 児童は、自ら学びを調整しながら、粘り強く問題解決に取り組んでいる。	3.00	2.33	0.7	
	4 児童は、学びを振り返り、次の課題に生かそうとしている。	2.75	2.67	0.1	
	5 児童は、学習チャレンジタイム等によって、基礎的・基本的の内容が身に付いている。(鹿児島チャレンジ、アシストシート等)	3.00	3.00	0.0	
	6 児童は、ICTを探究や課題解決に活用している。	2.75	3.00	-0.3	
	7 児童は、家庭学習の習慣が身に付いている。	3.00	2.67	0.3	
豊かな心の育成	8 生活指導における共通理解事項と花尾のよい子を、児童にきちんと指導し共通実践する。	3.00	3.00	0.00	
	9 児童の言動に気を配り、いじめ等の諸問題を、全職員で共通理解する。	3.20	3.00	0.2	
	10 道徳の授業を充実させ、豊かな心の育成に努める。	3.00	2.67	0.3	
	11 人権同和教育の視点に立った授業・学級経営を推進する。(児童全員のよさを見つけ、職員室や朝・帰りの会等で共有する。(うれしいポスト活用))	3.00	2.50	0.5	
	12 環境ISO活動やボランティア活動、青少年赤十字活動を積極的に推進する。	3.20	2.75	0.5	
	13 毎月23日のうちどく(花尾読書の日)に取り組む。	3.20	3.33	-0.1	
保健安全意識の向上	14 一学校一運動「一輪車名人になろう」に取り組む。(チャレンジかごしま活用)	3.67	3.33	0.3	
	15 仲よし体育や授業で持久力や敏捷性の向上に取り組む。	3.25	3.00	0.3	
	16 健康タイムや健康教室を工夫し、疾病予防や早期治療に取り組む。	3.20	3.00	0.2	
	17 早寝・早起き・朝ご飯習慣化に取り組む。	3.20	3.00	0.2	
	18 給食指導の充実にも努める(食物アレルギー・偏食・マナー等)	3.25	3.00	0.3	
	19 給食後の歯みがき指導に取り組む。	3.40	3.00	0.4	
	20 月1回の安全点検と連動した補修状況を共有し安全指導を徹底する。	3.20	3.75	-0.6	
特色ある開かれた学校づくり	21 地域合同行事や文化財少年団、あいご会活動を通して保護者や地域住民と絆を強める。	3.67	3.00	0.7	
	22 地域人材を活用して郷土を学ぶ探究学習(総合的な学習の時間・創意の時間)に取り組む。	3.80	2.75	1.1	
	23 教児同行で清掃活動や花作りを行い美しい学校づくりを行う。	3.17	2.25	0.9	
	24 教児同行で清掃活動や花作りを行い美しい学校づくりを行う。	3.40	3.00	0.4	
	25 黙々作業100%をめざす。	2.50	2.25	0.3	
	26 服務規律の厳正確保業務改善に取り組む。	3.17	3.25	-0.1	
	27 業務改善に取り組み、良い事例を共有する。	3.17	2.75	0.4	

考察及び改善方策

(1)	複式学級指導法研修会で授業提供を行ったことで、良い学びとなった。学習者主体の学びが意識され始めている。学年ごとに目指す子供の姿や個に応じた指導の在り方などの研究・実践を深めていく。
(2)	ICT活用は積極的に行っているが、探究や課題解決などにより活用していく必要がある。児童の主体的な学びにつながるような活用方法を検討していく。カリキュラムマネジメントを確実に行う必要がある。
(3)	「黙々作業」は、「一学校一改革」に掲げている。100%を目指して教児同行で徹底して取り組む。